

PROGRAM

学府長挨拶 (13:30~13:40)

基調講演 (13:40~16:00)

▶13:40~14:20

「元素戦略プロジェクト等の材料開発施策」

文部科学省 研究振興局基礎基盤研究課 ナノテクノロジー・材料開発推進室 **徳納 一成 工学博士**

▶14:30~15:10

「エネルギーと人間活動とのかかわり」

先端エネルギー理工学専攻 **田辺 哲朗 教授 工学博士**

▶15:20~16:00

「諫早湾における底質・水質環境」

大気海洋環境システム学専攻 **松永 信博 教授 工学博士**

ポスター発表 (16:20~17:20)

**若手研究者ならびに学会賞受賞者による
総理工学府における研究の最前線**

懇親会 (17:30~19:30)

「ぞんね」にて

平成
22年度 **九州大学**
総理工セミナー

平成
22年 **12月10日(金)**

13:00~ 受付 | 13:30~ セミナー開始

**九州大学筑紫キャンパス
C-Cube 1F 筑紫ホール**

〒816-8580 福岡県春日市春日公園6-1
TEL 092-583-7502 FAX 092-583-7060

主催 / 九州大学大学院総合理工学府

ACCESS

- 車をご利用の場合
春日公園側の春日門からのみ
入構可能です。
- 電車をご利用の場合
JR…鹿児島本線大野城駅
(快速電車停車駅)下車。
博多駅から、所要時間10~15分程度
- 西鉄…西鉄天神大牟田線
白木原駅下車、徒歩15分。
天神から、所要時間25分程度



お申し込み・お問い合わせ先

九州大学大学院総合理工学府HP / <http://www.tj.kyushu-u.ac.jp/>
〒816-8580 福岡県春日市春日公園6-1
九州大学大学院総合理工学府 / 片平賀子
TEL / 092-583-8748 E-mail / yoshi@asem.kyushu-u.ac.jp

平成22年度

九州大学

総理工セミナー

「元素戦略プロジェクト等の 材料開発施策」

徳納 一成 工学博士

文部科学省 研究振興局基礎基盤研究課
ナノテクノロジー・材料開発推進室

第三期科学技術基本計画のもとで立案された元素戦略を中心とした、材料開発施策の現況について概説する。

「エネルギーと人間活動との かかわり」

田辺 哲朗 教授 工学博士

九州大学総合理工学研究院
先端エネルギー理工学専攻

我々は、地球という宇宙広しといえど唯一無二と言って過言で無い特殊な環境に住み、太陽エネルギー（水素の核融合エネルギーで放出されるエネルギー）の恩恵を受けて生かされている。日ごろの生活に必要なエネルギーの大半を化石燃料に頼っているため、あまり意識することはないが、化石燃料が供給してくれるエネルギーの元をたたせば、古代から累々と蓄積されてきた太陽エネルギーそのものである。しかも現代では、その1千万年分程度の蓄積を、わずか1年で使ってしまう。Renewableエネルギーと化石燃料エネルギーを分けて考える傾向が強いが、両者は太陽から地球に注がれるエネルギーのうち、現在受け取っている分であるか、古代からの蓄積であるかの違いだけであって、その起源が太陽エネルギーであることに差はないのである。講演では、地球全体を視野に、エネルギーと人間活動とのかかわりについて様々な例を引きながら、エネルギーについて考えてみる。

「諫早湾における 底質・水質環境」

松永 信博 教授 工学博士

九州大学総合理工学研究院
大気海洋環境システム学専攻

1997年に、諫早湾干拓事業により諫早湾奥部は締め切られ、干潟15km²を含む35.5km²の浅海域が消滅した。2000年度の冬季には有明海全域にわたってノリの色落ちが発生した。これを契機に、諫早湾干拓事業と有明海奥部における環境悪化との関連が社会問題として注目を浴びた。その後、因果関係を解明するため多くの調査研究が行われたが、10年が経過した現在においても両者の関係を決定づける十分な結果が得られたとは言えないのが実情である。一方、諫早湾の環境変化に注目した調査・研究は、有明海奥部のそれに比べて非常に少ない。講演者は、これまで「諫早湾干拓事業による環境変化は、潮受け堤防に接している諫早湾内において顕著に現れるはずであり、干拓事業の影響を論じる上では、まず、諫早湾内の環境変化を把握することが先決である。」という考えに基づいて調査研究を行ってきた。講演では、これらの研究成果に基づいて諫早湾における底質環境変化と水質環境特性についてお話する。